

指標名: 國際收支(2009年5月)

発表日2009年7月8日(水)

～前年比マイナス幅が縮小～

第一生命經濟研究所 經濟調查部

担当 エコノミスト 小杉 晃子

TEL : 03-5221-4548

(单位:%)

		原数値 経常収支 (億円)						季調値 経常収支 (億円)					
		貿易・サービス収支				所得収支		貿易・サービス収支				所得収支	
		貿易収支		サービス収支				貿易収支		サービス収支			
		前年比	前年比	前年比	前年差	前年比	前期比	前期比	前期比	前期差	前期比		
07	10月	22065	44.2	97.6	50.4	385	21.8	24646	2.7	▲ 1.5	▲ 1.8	69	3.2
	11月	17058	▲ 2.3	▲ 16.8	▲ 12.1	▲ 343	15.2	18899	▲ 23.3	▲ 28.8	▲ 19.0	▲ 771	▲ 16.5
	12月	15891	▲ 10.8	▲ 33.0	▲ 18.2	▲ 1164	19.4	17018	▲ 10.0	▲ 60.2	▲ 39.6	▲ 678	22.7
08	1月	11637	1.8	赤字	▲ 36.9	▲ 34	7.2	18369	7.9	111.1	47.6	531	▲ 12.9
	2月	25142	4.8	▲ 9.2	▲ 7.0	▲ 168	14.3	15693	▲ 14.6	▲ 53.8	▲ 41.3	187	4.3
	3月	29024	▲ 11.7	▲ 33.3	▲ 29.3	▲ 788	6.6	18488	17.8	52.9	36.6	▲ 323	5.1
	4月	13859	▲ 29.4	▲ 59.1	▲ 41.9	1347	▲ 17.1	17238	▲ 6.8	26.9	▲ 1.8	1338	▲ 13.2
	5月	19810	▲ 6.8	16.2	▲ 0.1	687	▲ 12.4	18466	7.1	9.5	9.5	▲ 114	3.6
	6月	4716	▲ 68.9	▲ 99.8	▲ 81.5	▲ 440	25.1	14633	▲ 20.8	▲ 80.8	▲ 54.0	▲ 976	11.1
	7月	15693	▲ 15.2	▲ 81.5	▲ 60.0	926	8.4	15960	9.1	224.3	37.6	1391	▲ 7.7
	8月	10610	▲ 49.0	赤字	赤字	761	▲ 5.1	9460	▲ 40.7	赤字	赤字	▲ 723	▲ 5.7
	9月	15646	▲ 46.5	▲ 89.6	▲ 81.9	77	4.9	15060	59.2	黒字	黒字	257	8.1
	10月	9796	▲ 55.6	赤字	▲ 88.1	365	▲ 15.9	10593	▲ 29.7	赤字	▲ 92.5	162	▲ 7.7
	11月	6236	▲ 63.4	赤字	赤字	643	▲ 15.4	4371	▲ 58.7	628.1	赤字	▲ 627	▲ 5.1
	12月	1629	▲ 89.7	赤字	赤字	215	▲ 27.5	5922	35.5	▲ 29.0	▲ 51.6	▲ 547	▲ 4.1
09	1月	▲ 1327	赤字	486.4	赤字	392	▲ 31.5	1568	▲ 73.5	60.2	136.9	342	▲ 13.9
	2月	11348	▲ 54.9	▲ 92.5	▲ 80.9	▲ 263	▲ 34.1	6956	343.6	▲ 68.4	黒字	▲ 517	▲ 1.5
	3月	15346	▲ 47.1	▲ 87.1	▲ 89.8	782	▲ 13.3	9392	35.0	▲ 32.2	87.4	605	24.2
	4月	6305	▲ 54.5	赤字	▲ 69.2	▲ 785	▲ 18.5	9663	2.9	黒字	702.1	▲ 256	▲ 13.7
	5月	13018	▲ 34.3	▲ 52.2	▲ 22.1	▲ 1447	▲ 24.5	10158	5.1	240.5	52.9	▲ 312	▲ 3.1

(出所)財務省「国際収支状況」

○5月の経常収支は前年比▲34.3%

5月の経常収支は前年比▲34.3%の13,018億円(原数値)と4ヶ月連続の黒字となり、黒字幅も前月(同6,305億円)から拡大した。貿易収支は、海外における在庫調整の進展などにより、輸出の持ち直しが継続していることに加え、内需の低迷に伴って輸入が大幅に減少したことで、前月より黒字幅が拡大した。所得収支については、直接投資収益、証券投資収益ともに黒字幅が縮小したことから、8ヶ月連続の前年割れとなった。

経常収支は、依然として前年割れの状態が続いているものの、基調としてみれば、輸出の持ち直しにより、緩やかに改善しているといえよう。

○所得収支の弱含み傾向は続く

経常収支の内訳をみると、貿易収支は3,873億円(前年比▲22.1%)と4ヶ月連続で黒字となり、マイナス幅も縮小した。世界的な在庫調整の進展などにより、輸出が持ち直していることで、貿易収支も緩やかに増加している。

サービス収支は▲1,545億円(前年比+1477.3%)と、赤字幅が大幅に拡大した。貿易量の縮小などにより、「輸送」の赤字幅が拡大したほか、「その他サービス」の黒字幅が縮小したことなどから、全体として赤字幅は拡大した。

所得収支は1兆1,833億円（前年比▲24.5%）と、8ヶ月連続の黒字幅縮小となった。「直接投資収益」は、再投資収益が減少したことなどから、3ヶ月ぶりの黒字幅縮小となった。「証券投資収益」も、円高や海外の中長期債保有残高が減少していることなどにより、「債券利子」及び「配当金」収益の減少が続いていることから、全体として黒字幅は縮小した。

○先行き輸出持ち直しにより、経常収支も緩やかな改善が見込まれる

経常収支の先行きについて展望すると、まず所得収支に関しては、海外子会社の業績悪化や円高の影響を受けて、証券投資収益の弱含み傾向が継続すると見込まれることから、今後も当面、前年割れの状態が続くものと見込まれる。

次に貿易収支は、これまでの海外における在庫調整の進展、中国を中心とした景気対策の効果などにより、輸出の持ち直しが続いていることから、今後も緩やかに増加していくだろう。貿易統計の結果をみても、6月上中旬の輸出は前年比▲34.7%と、前月に比べ減少率は縮小している。また、輸出に先行する米ISM、OECD景気先行指数などの指標も改善しており、輸出は引き続き増加傾向で推移する可能性が高い。

以上を踏まえると、先行き経常収支は、貿易収支の改善により、緩やかに改善していくことが予想される。

